

からしだね

日々のみことばの默想と、主日礼拝の準備に……

2026.1.19～1.25(試行版)

1.19 月曜日	「汚れた靈どもは、イエスを見るとひれ伏して、『あなたは神の子だ』と叫んだ」(マコ 3:11)●イエスの権威は悪靈すらもひれ伏すほどのものである。この世のどんなものもイエスの前に傲慢であり続けることはできない。そんなキリストの力を私たち信仰者も受け取り力強く歩んでゆきたい。
1.20 火曜日	「そこで、十二人を任命し、使徒と名付けられた。彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ 悪靈を追い出す権能を持たせるためであった。」(マコ 3:14-15)●使徒たちは神であるキリストの権能を受けられた。彼らに功徳があったわけではなく、ただキリストの選びによって彼らは遣わされた。
1.21 水曜日	「『はっきり言っておく。人の子らが犯す罪やどんな冒瀆の言葉も、すべて赦される。』」(マコ3:28)●イエスの権威は、人類のすべての罪を赦すという神の権威であった。私たちが抱える過去の罪、現在進行形の惡習、信仰の動搖、これらはキリストの権威によってすべて赦されていることに感謝したい。
1.22 木曜日	「『神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。』」(マコ 3:35)●イエスは、イスラエル民族の肉的、血縁的なつながりを断ち切り、「信仰」によって神の家族となると宣言した。重要なのは、人種や、地位、血縁、財産ではなく、ただ「キリストへの信仰」である。
1.23 金曜日	「イサクがその土地に穀物の種を蒔くと、その年のうちに百倍もの収穫があった。」(創 26:12)●イサクは、神の言葉に従ったことで、溢れるばかりの穀物の収穫が与えられた。そこでは、妻を妹と偽るイサクの弱さがありながらも、神の約束と祝福はそれを凌駕した。
1.24 土曜日	「『種を蒔く人は、神の言葉を蒔くのである。』」(マコ 4:14)●イエスは 4:1-19 のたとえ話の「種」とは「神の言葉」であると説明される。人間は神の言葉を聴くことに対して様々な妨害を受ける。悪靈の働きはもちろん、多忙さや、怠惰、反発など…しかし、私たちはいつでも「聞く耳」を準備しつつ神の言葉に耳を傾けていたい。
1.25 日曜日	「『また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。』」(マコ 4:8)●“土地”とは私たちの心であろう。神の言葉という種が傲慢でカチコチになった心に落ちるなら、根を張り花開くことはない。しかし、主に飢え渴き、神を受け入れるフカフカな心を準備するならば、種は深く根を張り、ぐんぐんと成長してゆく。